

奈良 世界遺産「古の寺院を訪ねて」①

5/3/2013

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

散策の地 興福寺-東大寺-春日大社-法隆寺-唐招提寺-薬師寺-平城宮跡

旅のキッカケは、世界遺産、興福寺「南円堂」を一般公開(4/12～6/2)する企画を見たことによるもので、奈良市内を中心とした世界遺産を3日間楽しんできました。

初日は、奈良駅を降りて興福寺、東大寺と足を運びましたが、コンパクトな地形に、街並みと寺院があり徒歩で充分回れる奈良市内でした。興福寺と東大寺の間にある広大な奈良公園を中心にいる鹿は数百頭、道路に出ず車や人間環境にも驚く様子もなく、悠々と観光客の出す鹿煎餅を食べており、街中の落ち着いた風情を感じさせていました。また、修学旅行生や外国人観光客は多いのですが、商売する人も積極的な声かけはせず、街並みと寺院を活かした観光地となっており、大変気に入りました。また、どこのお寺にも、説明ボランティアさんがおり、懇切丁寧な説明をしており、パンフレットにない裏話などを聴くこともできました。これも洗練された観光地対応かと思った次第です。

【興福寺】正式名称:法相寺興福寺

有名な阿修羅像(写真は HP より引用)は、興福寺の境内の付属博物館にありました。像の上の手は、太陽と月を支え、真ん中の手は弓を引き、下の手は合掌している姿とのことです。奈良時代の作で今から約1300年前に作られたものです。背丈は150cm程ですが、観るからに荘厳でした。

また、南円堂ふくうけんさくかんのんざどうは、運慶の父、康慶の作によるもので、鎌倉時代に再興された像とのことでした。今回は、この一般公開に合わせて旅行を組みました。北円堂は、興福寺境内の中で一番古い建物で721年に創建されたようです。

どこの木製の仏像も、寄木でできており、中は空いているとの話をガイドからの説明で初めて知りました。これまで火事があっても、寄木を外して外に運んだそうです。火事と言っても盗賊等によるものが多いと聞きました。



阿修羅像
(何と、阿修羅ファンクラブがありました)



南円堂

【東大寺】 正式名:華嚴宗大本山東大寺

言わずと知れた「奈良の大仏さん」。とにかく、境内も広いが、大仏殿は本当に大きい。写真でみるより圧巻。ここでは、他のツアー客に混じり、ガイドの人の説明をじっくり聴くことができました。なかなか、ガイド個人の性格が出て面白い語りがいくつもありません。

また、この東大寺と大分県の宇佐八幡宮は、寺院と神宮という立場は違っても古くから結びつきがあり、聖武天皇は国家的大事業として東大寺を建立しましたが、その時に、宇佐の八幡神から「われ天神地祇を率い、必ず成し奉る。銅の湯を水となし、わが身を草木に交えて障ることなくなさん」という全面協力の託宣をだし、大仏に塗る金が不足すると金は必ず国内より出るとい託宣を出し、やがて陸奥国から金が献上されてきましたとのことです。(郷土史 HP より)

また、2002 年に東大寺で「宇佐神宮の神輿」の昇殿が行われたくらい東大寺と宇佐神宮は現在も繋がれているとのことです。<http://morgen3.fc2web.com/02usamikoshi/usamikoshi1.htm> 参照

[なお、宇佐神宮は神輿^{みこし}発祥の地であり、全国 4 万社の八幡社の総本宮]



大仏殿



二月堂を観る

【春日大社】

ホテルを朝早く出て、9 時から始まる「朝拝」^{ちようはい}に参列しました。8 時過ぎには広い境内に着いたので、神社等の社を見ましたが、こんもりとした森の静寂の中、巫女さん達が掃除をしている姿が清楚で印象的でした。

朝拝では、神職 7 名とともに我々一般の約 10 名と祝詞を 15 分ばかり読み上げましたが、独特の節回しについていくのがやっとでした。



南門

「大社」というのは、神社等の集合体ということで、春日大社には靈験な神様が摂社、末社として合わせて 61 社祀られています。とりわけ、本殿近くには若宮 15 社があり、そこをめぐる「若宮 15 社めぐり」というのもありました。神職について参拝するツアーがありました。

また、伊勢神宮と同様、20 年毎の「式年造替」という神殿等を作り替えするものがあります。今回の平成 27 年～28 年は第 60 回目となります。これは、技術の伝承と造営できる職人を育成することもあるようです。西暦 768 年からのもので、伝統はこのようにして守られていることがわかりました。

また、雅楽など祭りのイベントは年間 800 回もあると聞きました。一度は観たいものです。

以上